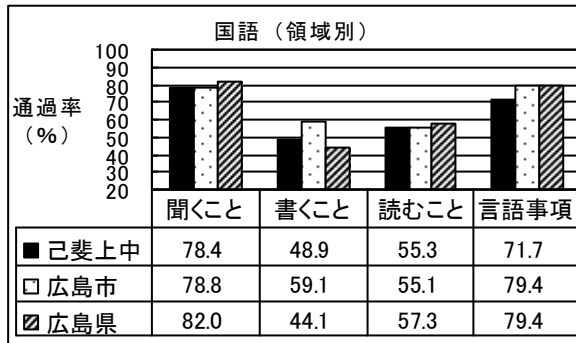
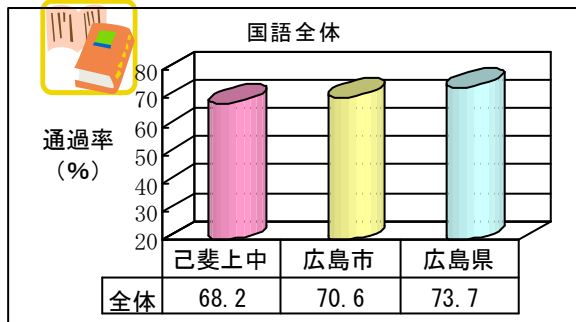
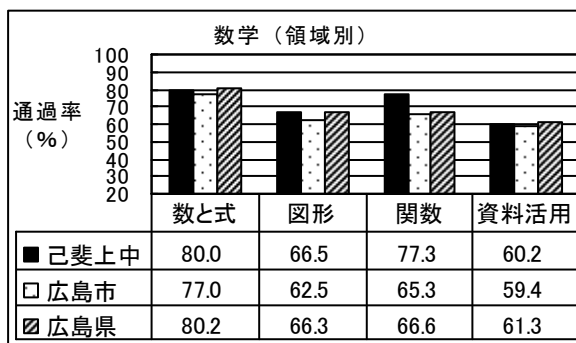
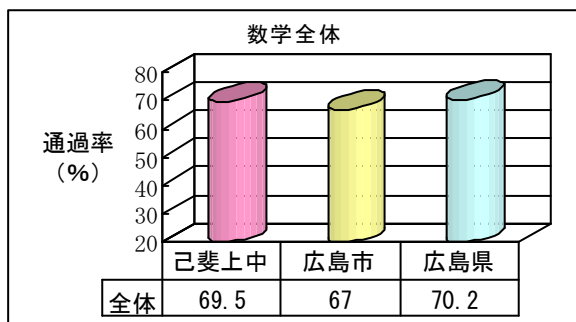


基礎・基本定着状況調査の結果

★国語



★数学



調査の概要

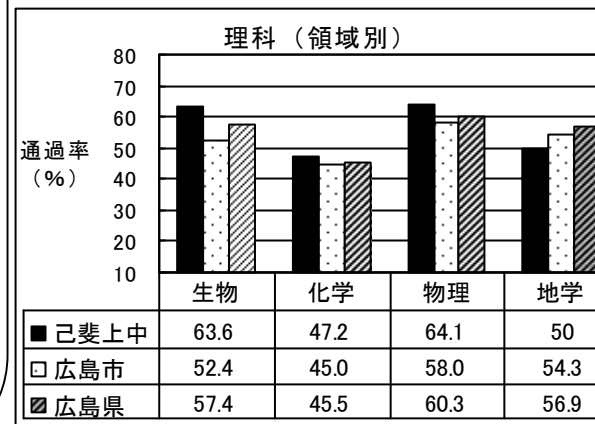
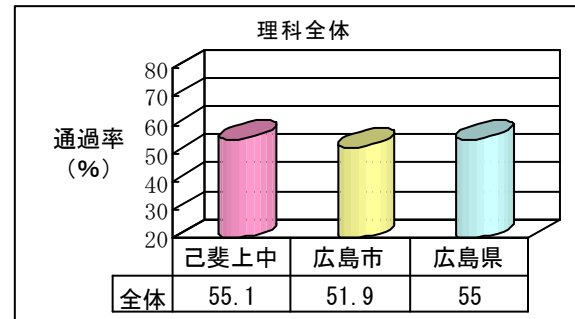
○日時 平成 26 年 6 月 10 日 ○対象 第 2 学年
○教科 国語・数学・理科・英語

★理科

本年度は、県平均を 5.5 ポイント下回る結果となった。

領域「言語事項」については、県と 7.7 ポイントの開きがあった。項目別では、「主語・述語の関係」の通過率が低かった。これは、述語に対する主語を答える問いであった。文節の働きや文節同士の関係を正しく捉えられていないためと考えられる。また、領域「書くこと」の「叙述の仕方の確認」では、県の半数以下の通過率となっている。これは、文をその内容から二文に分け、二文目に主語を補う問いであった。二文で書くことはできていたが、述語に対する主語を一文目から考えて補うことができなかったためである。

条件作文については根拠に基づいた考えを書けるようになってきたが、今後は、文節の関係を正しく捉え、過不足のない文を書く力を身につけさせていきたい。



本年度は、県平均を 0.1 上回った結果となっている。特に生物領域と物理領域は大きく上回る結果となった。これは、今回の光の問題と植物の問題ともに授業でも得意としている生徒が多かったことだと考えている。しかしながら、物理領域や化学領域の小数を含めた計算は生徒全体に苦手としているので問題によっては、結果は異なっていたのではないかと考えられる。化学領域は県平均を上回っているものの、うろ覚えの部分が多く、今回のような問題では、理由を確実に答えられるようにするには、これからの実験や観察での考察の中で練習していく必要があると考える。

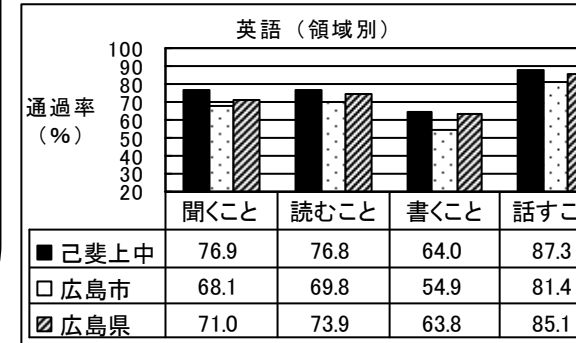
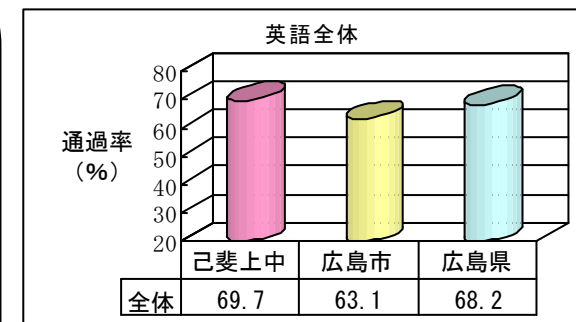
大きく下回った地学領域では、「地震の記録による震源距離の推定」は、昨年度から苦手としている生徒が多い。特に時間の計算、Km と時間を同時に考える問題を行い身につけさせていくようにしていく必要がある。火山の「火山灰の観察方法」や「火山の形の推論」は、問題の回答が完全な回答の生徒が少なかった。この単元ももう一度復習を行うことでより確かな学力を身につけていけると考えられる。

本年度は、県平均との比較では 0.7 ポイント及ばなかった。領域別にみると、「数と式」は 0.2 ポイント、「資料の活用」は 0.9 ポイント、県平均を下回っている。「図形」「関数」は大きく上回る結果となった。

項目別では、「数と式」の「問題解決の構想と結果の振り返り」の通過率がもっとも低かった。これは問題文の量が多く、資料が複数あるため課題を把握する理解力の不足や、条件に適した説明力の不足が考えられる。まずは、問題文から何を問われているのか、条件に適した説明ができているかという点をおさえ、反復練習により、課題解決への方法や視点を増やしていくように取り組んでいく。

また、累乗や式の値を求めるような計算問題はよくできていた。今後も週末プリントなど家庭でも継続して取り組める課題を出していき、計算力を高めさせていきたい。

★英語



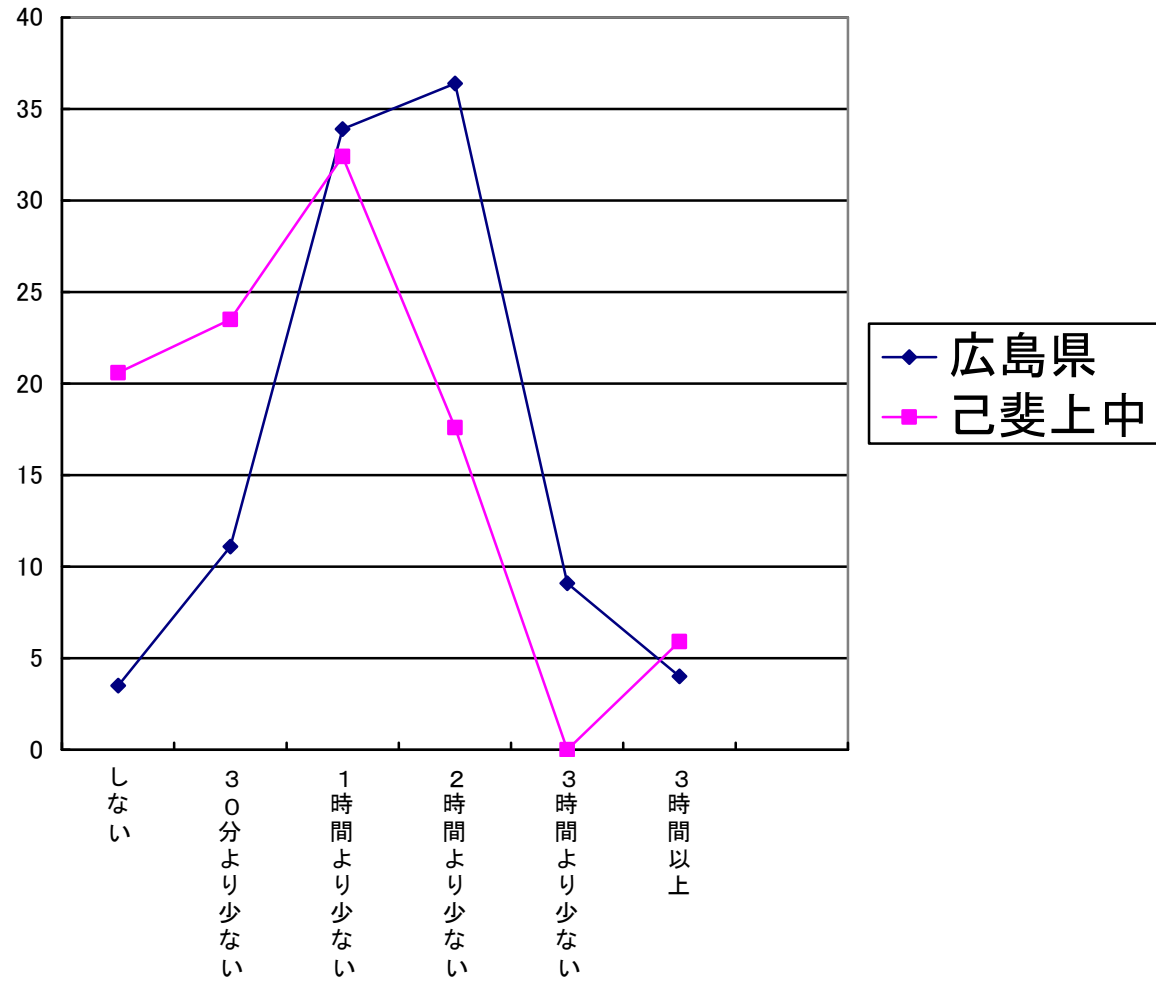
本年度は全体でも領域別でも広島市、広島県よりもわずかながら上回ることができたが、それぞれの領域に課題は残されている。

「聞くこと」では相手の質問に適切に応答する問題の正答率が低かった。相手の質問の最初の 2, 3 語（疑問詞、助動詞、主語、等）に特に注意するよう、リスニングを中心に指導したい。

「読むこと」「書くこと」では「話の流れの理解」「つながりのある英文を書く」に関する問題で県平均を下回った。二つ以上の文をつなぐ時に使われる代名詞や接続詞の働きを意識させて読み書く活動を行わせたい。読みではある程度のスピードで本文を暗誦させたり、新出事項を活用した自己表現では、必ず二文以上で意味のつながりがある英文を書かせるなどが効果的であろう。

「話すこと」については、ペアでの対話練習を積極的に行っているが、他領域の課題克服につながるよう、相手の質問を正確に聞き取れるよう集中させ、二文以上の応答を返せるように促したい。

ふだん、家では、1日何時間くらい勉強していますか
(月～金)



休日、家では、1日何時間くらい勉強していますか
(土曜・日曜・祝日など)

